

# 教育実習生における実習日誌記録の変容に関する検討

—マネージメント・インストラクション・フィードバック及び授業の総合評価—

保健体育科 大津 展子

**要旨** 本研究では、教育実習生が本校の教育実習を通して、教師としてどのような質的变化をもたらしていくのか、実習生が毎日記録した実習日誌の内容をマネージメント・インストラクション・フィードバック及び授業の総合評価の観点から考察を行い、その変容を提言する。

**キーワード** 教育実習 マネージメント インストラクション フィードバック 評価

## 1. はじめに

本校の保健体育科は、専任教諭3名、非常勤教諭1名で構成されている。体育の施設は、バスケットボールコートが1面とれる体育館、武道館、25メートルが7コースあるプール、テニスコート、ハンドボールコート、アスファルトのバスケットボールコート、そして最大300メートルがとれ、サッカーコートが1面とれるグラウンドを所有している。

附属校の役割でもある教育実習が本校でも毎年数回にわけて行われる。本校の受け入れ態勢は毎年、筑波大学体育専門学群から5月と9月に各6名が3週間、10月に筑波大学医学専門学群の看護の学生2名が3週間教育実習を行っている。また、近隣の女子栄養大学からも毎年6月に1名が、3週間受け入れている。卒業生に関しては、申し込みがあれば受け入れるという状況である。よって、最低年4回教育実習生を受け入れている。授業がほとんど行われない7月と3月、夏休みの3月を除くと年間の約半分は教育実習生が学校にいることになる。筑波大学の体育専門学群の学生は体育と保健の授業を行うため、実習期間中の専任教諭が担当している授業すべてを提供している。筑波大学医学専門学群の看護の学生と女子栄養大学の学生に関しては、養護の免許を取るのが主な目的なので、実習期間中の保健の授業のみ提供している。5月には、体育祭、9月には、文化祭と筑波大学体育専門学群の学生が来る時期に、生徒と授業外のクラス等でコミュニケーションを密にとれる行事が組み込まれている。

教育実習の流れは、まず、本実習の約1ヶ月前に本校でオリエンテーションを行い、そのオリエンテーション

では、教育実習を行うにあたっての心構えなどを知り、教科指導の際に、実習で担当する授業配分が決定する。そこで、本実習で行う教材や日程、時間割などを知る。ここから本来であれば教材研究や指導案作成がはじまる。オリエンテーション時に、専任教諭のメールアドレスを伝え、実習初日や2日目の授業の指導案をメールに添付してもらい添削を行っている。ただやる気があり事前に指導案をメールしてくれる学生さんは、ほんのわずかである。そして、本実習が始まり、あわてて睡眠不足になりながら授業の1日前、それも勤務時間が終わるころ「先生できました」と持ってくるケースがほとんどである。

## 2. 研究の目的

私は、教育実習の初日から最終日まで実習生に対して、毎日授業の課題に一生懸命取り組んでいる生徒や目標を達成しようと努力し目標が達成できた生徒には、その生徒のどこがどのように素晴らしかったのか具体的に賞賛するように指導している。しかし、実習生、特に1週間目は、授業を時間通りに終わらせることや指導案通りに授業を展開することにのみ集中しており、生徒への言葉かけが全くできていない状況である。加えて、授業中は、後で自分が授業中に発言したことやどのような態度をとったか覚えていないくらい緊張しているように見うけられる。実習中盤から後半にかけて、個人差はありますが、授業を一通り流せるようになり、余裕が生まれてくると自然と生徒へ目が向けられるようになり、やっと個々の生徒に対応したフィードバックが行えるようになると思われる。そこで、教育実習生の実習日誌記録から授業に関する実習生の3週間の変容をみることにした。

### 3. 研究の方法

本年度の前期にきた学生を対象としたため、実習期間は、2007年5月7日から5月25日の3週間である。実習日誌記録に関しての分析は、各実習生が毎日記録したA4用紙15行程度に書かれている文章の中に授業に関する内容のマネージメント・インストラクション・生徒へのフィードバック・授業の総合評価についてそれぞれチェックしカウントした。また、その言葉もデータとして収集した。フィードバックに関しては、毎日毎回指導している「生徒を誉める」という行為の頻度を詳しく調べるため、ただ自分から声をかけたなどという抽象的なもの、「一生懸命がんばったね」などという一般的なもの、生徒の名前が出てくるような具体的なものの3つにわけて分析を行った。授業の総合評価に関しては、生徒の意欲が高かった、クラスの雰囲気よかったなど授業全体を通した感想や評価を述べている言葉を対象とした。

### 5. 結果

表1 教育実習生①

日数(日)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
マネージメント		5	3	1	1	1	1	0	体育祭準備	6	体育祭	7	0	3	1	2
インストラクション(教示)		2	1	0	1	1	0	0		0		2	1	3	5	2
(生徒とのかかわり) フィードバック	△…抽象的 (例)いいよ	0	0	0	0	3	2	1		0		0	3	0	0	1
	○…一般的 (例)がんばったね	0	0	0	0	0	0	0		0		0	0	0	0	1
	◎…具体的 (例)何をどう誉めたか	0	0	0	0	0	0	0		0		0	0	0	0	0
評価		1	0	0	2	2	4	6		1		2	4	0	0	1

教育実習生①は、一般企業に就職が内定していた。一番上のマネージメントに関して、ほぼ毎日記している。生徒とのかかわりを示すフィードバックは、抽象的なものと一般的なものがあつたが、具体的なものは3週間で1つも記載がなかった。抽象的なものが5日間も出てきているのは、他の実習生と比較しても多い方である。そのため、生徒に自ら言葉かけしようという意識は高かったのではないかと考えられる。

教育実習生②、教師志望ですが、タイの日本人学校で教鞭をとることを目標としている。

教師を目指しているためか、日誌の文章の中に頻繁に生徒の個人名がでてきた。そして、マネージメントに関して、実習の最後のころはほとんど記載がなかった。授業中生徒を名前前で呼んであげようと初期から生徒の名前を覚えることにも努力している様子が伺えた。

教育実習生③も教員を志望しているようです。しかし、

### 4. 分析方法

①基本的に授業が流せるかどうか(マネージメント)、②生徒にきちんと本時の内容が伝えられたか(インストラクション)、③生徒に言葉かけできたか(フィードバック)、④評価できたか、以上私が実習生に要求する順番です。初心者である実習生が授業をスムーズに展開できるようになるためには以上のような段階があると考えている。指導案の作成に関しては、生徒を目の前にした実際の授業のみを対象とすることにしたで、今回は省くことにした。しかし、指導案がきちんと作成できるか否かは、授業をスムーズに展開できるかどうかと正の相関関係があるのではないかと考えられる。

そこで、上記した!~\$の4観点に関して言語分析することによって実習生の変容をみるができるのではないかと考えた。

フィードバックに関して、11日目に抽象的なものの1つのみだった。教員を志望していても、事前の準備の有無なのか、個人の能力の差なのか、指導教員の指導力不足なのか、不明確である。

教育実習生④に関しては、ご覧の通り、授業に関する内容の記載が全体的に少なく、教師とは・・・教育とは・・・という哲学的内容が大多数をしめていた。「教員は、嫌いでした」「特に体育の授業は嫌いでした」と話していたのが、この結果と関係あるかどうかはわかりかねるが、とても印象的だった。

教育実習生⑤は、試合・忌引き以外の理由で欠勤した。後から本人に確認したところ、精神的苦痛が原因のようだ。他の指導教官の授業を主に担当し、授業の反省の際もマネージメントとインストラクションのことばかり指摘されていたので、以上のような結果になったと考えられる。2・3・4日目に、抽象的なフィードバックが出てい

たのに、後半になるとなくなってしまった。やはり、この実習生の結果をみると、指導教官のパーソナリティや指導方針・指導内容・指導方法なども実習生の授業やモティベーションに大きく影響すると考えられる。

教育実習生⑥は、強く教員を志望している。教員や生徒の評価も非常に高かった学生である。フィードバックの数はそれほど多くないし、一見マネージメントとインストラクションに特化しているようにみえるが、「～が

できなかった」「～を言い忘れた」「～を用意し忘れた」という自分の良くなかった点を指摘するだけの他の実習生と異なり、それを改善する策まで考案して、次の授業に生かそうという内容が書かれていた。最後の2日間に評価の記載がなかったが、これは、この2日間授業がなかったこと、次に授業行うチャンスがないことが原因ではないかと考えられる。

表2 教育実習生②

日数(日目)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
マネージメント		0	1	1	1	3	1	3	体育祭準備	0	体育祭	2	0	0	0	0
インストラクション(教示)		3	2	0	4	4	2	0		1		0	0	2	5	1
(生徒とのかかわり) フィードバック	△…抽象的 (例)いいよ	0	0	0	2	0	0	0		0		0	1	0	0	1
	○…一般的 (例)がんばったね	0	0	0	0	0	0	0		0		0	0	0	0	0
	◎…具体的 (例)何をどう誉めたか	0	0	0	0	0	1	4		1		0	0	0	0	0
評価		1	2	0	0	1	4	0		0		2	1	0	2	3

表3 教育実習生③

日数(日目)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
マネージメント		3	6	5	2	4	3	4	体育祭準備	6	体育祭	3	5	6	6	4
インストラクション(教示)		5	2	3	3	7	2	4		3		2	2	1	3	2
(生徒とのかかわり) フィードバック	△…抽象的 (例)いいよ	0	0	0	0	0	0	0		0		1	0	0	0	0
	○…一般的 (例)がんばったね	0	0	0	0	0	0	0		0		0	0	0	0	0
	◎…具体的 (例)何をどう誉めたか	0	0	0	0	0	0	0		0		0	0	0	0	0
評価		0	2	2	0	1	4	1		3		1	1	0	1	1

表4 教育実習生④

日数(日目)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
マネージメント		2	3	2	0	1	0	2	体育祭準備	0	体育祭	3	0	1	1	1
インストラクション(教示)		3	5	2	0	0	0	0		0		0	1	2	1	3
(生徒とのかかわり) フィードバック	△…抽象的 (例)いいよ	0	0	2	0	0	1	0		0		0	0	0	0	0
	○…一般的 (例)がんばったね	0	0	0	0	0	0	0		0		0	0	0	0	0
	◎…具体的 (例)何をどう誉めたか	0	0	0	0	0	0	0		0		0	0	0	0	0
評価		0	0	0	0	2	2	3		1		2	2	1	0	0

表5 教育実習生⑤

日数(日目)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
マネージメント		4	4	5	1	年休	4	3	体育祭準備	0	体育祭	2	3	4	3	1
インストラクション(教示)		3	3	0	2		1	4		0		2	2	2	2	3
(生徒とのかかわり) フィードバック	△…抽象的 (例)いいよ	0	1	1	2		0	0		0		0	0	0	0	1
	○…一般的 (例)がんばったね	0	0	0	0		0	0		0		0	0	0	0	0
	◎…具体的 (例)何をどう誉めたか	0	0	0	0		0	0		0		0	0	0	0	0
評価		0	0	2	1		0	2		1		2	2	1	0	2

表6 教育実習生⑥

日数(日目)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
マネージメント		4	1	6	4	2	3	1	体育祭準備	6	体育祭	2	2	3	1	4
インストラクション(教示)		2	6	1	1	3	6	4		2		5	3	1	5	3
(生徒とのかかわり) フィードバック	△…抽象的 (例)いいよ	0	1	0	0	0	0	0		0		0	1	0	0	1
	○…一般的 (例)がんばったね	0	0	0	0	0	0	0		0		1	0	0	0	0
	◎…具体的 (例)何をどう誉めたか	0	0	0	0	0	0	0		0		0	0	0	0	0
評価		1	0	2	1	1	2	3		0		2	0	1	0	0

表7 教育実習生6名が実際に日記に記した言葉

マネージメント		時間・天候・資料の準備・練習の時間に多く費やした・測定の日・5分以上オーバー・整列の仕方・十分な運動量の確保・事前準備不足・待ち時間が長い・集合のタイミング・安全に留意する・流れがスムーズ・授業の段取りが悪い・コートラインを引いていない・ボールを準備していない・ゼッケンを用意していない・授業の内容はほぼ予定通り・もう少し工夫すべき・自分が用意した資料・やることを明確にする・時間が押した・人数確認
インストラクション(教示)		目標に応じた指導・指導案の内容について・説明方法・言い忘れた・能力差を考慮する・動機づけ・静かにさせる・注意する・重要事項を生徒に気づかせるためにどうするか・コツを教える・内容の指示・ダンスの指導や指示・具体的な言葉かけをするのは大切・コツやモチベーションアップの工夫・生徒の名前を呼ぶことが効果的・大きな声を出すのではなくメリハリのある声を出すこと・目標をたて常にそれを意識させる・的確な指示・さくさんの知識がないと授業できない・きちんとさせること
(生徒とのかかわり) フィードバック	△…抽象的 (例)いいよ	話しかける・励ましや誉め言葉をかけることを意識した・1人1人との会話・大きな声で記録を呼んだ・フィードバックした・積極的に声をかける・表情をみて言葉をかける
	○…一般的 (例)がんばったね	一生懸命取り組んだ生徒を誉めた・生徒の名前を呼んで応援する・1番の生徒だけを誉めるのではなく頑張っている生徒をみんな誉めた
	◎…具体的 (例)何をどう誉めたか	前回の記録を生徒にフィードバック・「○○はいつも頑張ってるからすばらしい」と声をかけた・いい記録が出た生徒を思いつきで誉める
評価		意欲が高い・自分勝手な行動をする生徒・ものすごくやる気があった・記録が更新した生徒が多い・気合あふれる走りをしていて・生徒のタイムが向上したのでよかった・満足して帰って欲しい・授業の雰囲気がいよいよ一生懸命聞いてくれた・いい子たち・生徒がバニクになった・生徒が協力してくれた・「先生みてね」と言われたのが嬉しかった・記録のよい生徒はなかなか記録が縮まらない・生徒が積極的に発表していた

## 6. 考察

教育実習期間中、実習生の日誌からも!マネージメントと"インストラクションについては指導案を作成し、授業を実際に行いながら身に付けることができると考えられる。確かに毎時間実習生の授業を観察していて徐々にマネージメントに余裕ができインストラクションも教師らしく上達していくのがわかる。しかし、#のフィードバックまで実習中に完璧に身につけられる学生はほとんどいないに等しい。この教師にとっても生徒にとっても1番大切な相互作用であるフィードバックを指導教官である私が一貫して言い続けていてもなかなか誉めるという行為を実行できない状況にあった。

## 7. 今後の課題

この分析方法が適切であったか、今回の分析は1で行ったため、信憑性に掛けていたと考えられ、今後何人かで分析を行う必要があると考えられる。また、この日誌に書かれていることはあくまで主観であり、客観的データとの相関をみる必要があると考えられる。最後に、教育実習中にフィードバックが行えるようになるには事前にマネージメントとインストラクションができていることが必要最低限の条件になると考えられるため、それらを身につけられる機会を事前に与えられれば、実習中により教師として生徒への効果的なフィードバックを身につけられると考える。

なお、本研究は、平成19年度スポーツ教育学会（平成19年11月4日）において口頭発表を行った。